

令和 8 年度事業計画書

(令和 8 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日まで)

一般社団法人日本高圧力技術協会

【概要】

本会は、圧力設備及び貯槽に関する学術及び技術の向上並びにその普及を図り、もって我が国の産業の発展に貢献することを目的としている。その目的を達成するため、様々な活動を長年にわたり展開している。令和 8 年度においては、協会活動に大きな支障がでないよう円滑な事務所移転を遂行するとともに、各種定例活動を推進する。さらに、規格制定活動関連の強化について継続的に検討を行う。中でも規格制定活動を持続させるための若手技術者の育成と登用を図ること、若手技術者に参画していただくために魅力ある協会活動の展開について検討を進める。

I. 会務関係活動

会務活動では、定時総会、理事会及び会務遂行のための各委員会を開催する。定時総会、各賞授与式、春季講演会は 5 月 22 日(金)、例年同様都市センターホテルを会場として実施し、講演会はオンライン配信併用のハイブリッド方式とする。懇親会は立食方式で開催する。秋季講演会及び見学会は、11 月 19 日(木) かがわ国際会議場(香川県高松市サンポート 2-1)を講演会場、翌 20 日(金)は新居浜 LNG 株式会社新居浜 LNG 基地及び住友化学株式会社愛媛工場の施設見学を計画している。

会誌「圧力技術」については、定期的に発行(隔月)する。また、J-STAGE3 の投稿システムを活用し、会誌への投稿促進、より一層の質的向上及び投稿、査読、編集の効率向上等のため電子ジャーナル化を推進する。変更された投稿規定に基づいて、委員会への募集による査読者の充実を目指す。

規格制定活動については、日本高圧力技術協会規格(HPIS)の法規制への引用及び民間規格としての活用を促進していくため、圧力設備規格審議委員会及びエネルギー貯槽等規格審議委員会での HPIS 審議を経て、制定を進める。また、本協会に関連する日本産業規格(JIS)の制定、改訂を進める。規格制定活動を継続的に強化・活性化するための組織改革などの検討を進めている。

国際交流活動では、これまでの ASME BPTCS (Board on Pressure Technology Codes and Standards) Meeting 及び ASME Code Committee Meeting などの参加実績を基に ASME との連携を継続する。日本圧力容器研究会議(JPVRC)では、JPVRC 事務局及び設計部会担当協会として、関係協会と連携し JPVRC の枠組みを維持しつつ、活動報告など情報共有を進める。

認証事業活動については、圧力設備診断技術者(MDE)のレベル 1・レベル 2 及びリスクマネジメント技術者(RME)の評価試験を 12 月に東京と大阪で実施する。圧力設備診断技術者(MDE)資格は、経済産業省の設備保全スマート化として CBM (Condition Based Maintenance) 重視の方針のもと、この資格が取り上げられたことから取得を目指す技術者が増加した。設備等のリスクマネジメント技術者(RME)資格も、経済産業省の「高圧ガス保安のスマート化」として平成 29 年 4 月開始された「スーパー認定事業者制度」の認定要件として例示されたことにより取得の動きが拡大した。令和 5 年 12 月に施行された新たな認定制度「認定高度保安実施者制度」では、スーパー認定事業者が A 認定事業者(特定認定高度保安実施者)に置き換わり、保安検査の方法に民間規格が活用され事業者の選択肢の拡大が期待される。令和 12 年 6 月までの経過措置期間が設けられており動向を注視する。

教育講習活動については、教育委員会のもとで技術者教育講習の更なる充実を図ってきた。令和 8 年度は昨年と同様、会場とオンライン配信のハイブリッド方式で行う。令和 8 年度は圧力設備診断技術者レベル 1 及びレベル 2 のテキストを改訂する。受講者から要望のある講演スライド集を今年度も配布する。解答例付評価試験問題集は好評のため本年度も令和 4 年度～令和 7 年度版を出版するとともに、講師陣による講習内容のレベルアップに努める。

II. 事業関係活動

技術セミナー活動については、企画委員会、専門研究委員会でニーズに沿ったテーマを企画し、技術者教育の充実、技術の普及に努める。開催回数は昨年度より 1 回少ない 5 回開催を計画し、受講内容を充実させ、受講者の増加を目指す。受講者はオンライン配信による拡がりでも地方の参加者も多く、本年度もオンラインのみの開催となる。

専門研究委員会活動については、「圧力容器規格委員会(PVCS 委)」における材料規格・維持規格・高圧容器規格の 3 分科会、「エネルギー貯槽等安全性専門研究委員会(EST 委)」、「クラッド研究委員会(CLAD 委)」、「3 次元 FEM 応力評価研究委員会(TDF 委)」、「高温設計研究委員会(ETD 委)」、「圧力

設備のシーリング技術研究委員会(STOP 委)、「リスクに基づく保全技術研究委員会(RBM 委)」、は引き続き専門の研究を進めるとともに規格制定にも尽力する。「高圧水素技術研究委員会(PHT 委)」は自動車用高圧水素容器及び平底円筒型大型液化水素貯槽の保安と経済性を両立させるための研究開発と研究成果の基準化を行う。「保全分野への AI 適用に関する研究委員会」(AIM 委)は保全業務の AI 適用検討、AI に適した保全業務の洗い出しを行う。

臨時専門委員会活動については、独立行政法人 エネルギー・金属鉱物資源機構 (JOGMEC) 殿から受託した「令和 7 年度タンク開放検査の合理化に関する調査 (板厚測定装置の開発とコーティングに関する業務)」の継続受託を目指す。一般財団法人 JCCP 国際石油・ガス・持続可能エネルギー協力機関殿に対し、令和 7 年度「日本の最新検査技術導入による天然ガス移送設備管理のデジタルトランスフォーメーション支援(タイ)」の継続受託を新日本非破壊検査株式会社と共に目指す。一般財団法人 日本規格協会殿から受託した「鋼板の貫通評価式に関する J I S 開発」について、令和 8 年度は JIS 制定対応及びシンポジウム開催を一般財団法人 電力中央研究所と協力し実施する。

【活動内容】

I. 会務関係活動

1. 総会・理事会・会務委員会スケジュール

(敬称略)

会合名	開催回数	委員会委員長
定時総会	1 回	[議長]吉川暢宏
令和 8 年度 HPI 各賞授与式	1 回	吉川暢宏
臨時理事会	1 回	
理事会	6 回	
企画委員会	6 回	岡崎慎司
総務委員会	6 回	井上健裕
編集委員会	6 回	水谷義弘
認証委員会	1 回	阪上隆英
教育委員会	1 回	辻 裕一
圧力設備規格審議委員会	2 回	朝田誠治
エネルギー貯槽等規格審議委員会	1 回	岡崎慎司
功績賞・貢献賞選考委員会	3 回	
科学技術賞選考委員会	3 回	

2. 令和 8 年度定時総会

開催日：令和 8 年 5 月 22 日 (金)

会 場：都市センターホテル

- 議 案：第 1 号議案 令和 7 年度事業報告書の件
 第 2 号議案 令和 7 年度決算報告の件
 第 3 号議案 令和 8 年度事業計画書の件
 第 4 号議案 令和 8 年度収支予算書の件
 第 5 号議案 理事選任の件
 第 6 号議案 会員会費改定の件

2.1 令和 8 年度日本高圧力技術協会各賞の授与 (順不同：論文受賞者所属先は投稿時点)

[貢 献 賞]

- ・高木愛夫君 ((一財) 日本規格協会)
- ・西口磯春君 (神奈川工科大学)
- ・大森章夫君 (JFEスチール(株))

[科学技術賞]

- ・受賞論文「溶接熱影響部におけるオーステナイト系ステンレス鋼の鋭敏化挙動のモデル化」
(圧力技術 第 63 巻 5 号)
受賞者 小川和博君 (大阪大学)

[科学技術振興賞]

- ・受賞論文「圧着ハガキの接触力学（弾性凝着理論）的検討ー「一度はがすと貼りなおせない」機能の発現条件ー」（圧力技術 第63巻2号）
受賞者 高橋邦夫君（東京科学大学）
- ・受賞論文「アミン水溶液中の低炭素鋼の応力腐食割れに及ぼす粒界セメントタイトの影響」（圧力技術 第63巻4号）
受賞者 中村祐太君、萱森陽一君（日本製鉄株）

[科学技術奨励賞]

- ・受賞者 渡部久俊君（東洋エンジニアリング株）
受賞論文「海外のアンモニアタンク動向と大型化に向けた取り組み」
執筆者（渡部久俊、長島英紀、高橋政志/東洋エンジニアリング株）
（圧力技術 第63巻6号）
- ・受賞者 平川璃織君（(国研)産業技術総合研究所）
受賞論文「Effect of periodic surface roughness on cohesive failure in adhesive joints: A finite element study（周期的表面凹凸が接着継手の凝集破壊に及ぼす影響の有限要素解析）」
執筆者（平川璃織/ブラウンシュバイク工科大学、
水谷義弘、轟 章/東京科学大学、寺崎 正/産業技術総合研究所）
（圧力技術 第63巻6号）

3. 定期講演会・見学会

種別	行事内容	開催日	場所	担当
講演会	春季講演会	5月22日(金)	都市センターホテル	企画委員会
講演会	秋季講演会	11月19日(木)	かがわ国際会議場	企画委員会
見学会	秋季見学会	11月20日(金)	新居浜 LNG株新居浜 LNG 基地、住友化学株愛媛工場	企画委員会

4. 会誌「圧力技術」の編集・発行

会誌「圧力技術」を年6回発行する。

電子ジャーナル化の推進として、科学技術振興機構が運営している電子投稿システム J-STAGE3 を活用して、会誌「圧力技術」の投稿・査読・編集の電子システムの運用を促進し、効率化を図りつつ査読者の充実を図る。

5. 規格制定活動

HPIS、HPI TR の法規制への引用、民間規格としての活用を促進していくため、圧力設備規格審議委員会及びエネルギー貯槽等規格審議委員会のもとで、中立性、公正性、公開性に基づいた HPIS 規格の制定、改正を進める。本協会に関連する日本産業規格(JIS)の制定、改訂を進める。

6. 国際活動

国際活動委員会関連及び関係委員会のもとで、以下の活動を進める。

- (1) ASME Code Committee Meeting に PVCS 委員会高压容器規格分科会の委員を派遣し、ASME Sec.VIII,Div.3 規格の改正に関し提案し、日米の規格制定活動の情報交換を行う。
- (2) 日本圧力容器研究会議(JPVRC)活動では、鉄鋼協会、日本溶接協会、HPI の圧力容器研究関連 3 団体を主体とする運営委員会(鉄鋼協会は事務局のみ参加)にて、情報共有など活動を継続する。

7. 認証事業活動

圧力設備診断技術者認証を始めて 25 年が経ち、毎年度技術者が資格を取得し資格保有者は増加している。圧力設備は高経年化が進み設備診断はますます重要な事項となっている。設備等のリスクマネジメント技術者 (RME) 資格は、平成 29 年 4 月「スーパー認定事業所制度」認定要件の一つとして例示され試験受験者が増え資格取得の動きが活発化した。令和 5 年 12 月に新たに「認定高度保安実施設置者制度」が施行され、スーパー認定事業者が A 認定事業者に置き換わった。認証受験者のさらなる増加を目指し、BOK(習得すべき技術内容)の適正検証のためアンケートを実施し、本活動の維持、拡大を目指す。

7.1 圧力設備診断技術者及び設備等のリスクマネジメント技術者の認証制度

令和 8 年度はレベル 1 及びレベル 2 技術者評価試験と設備等のリスクマネジメント技術者評価試験を下記の通り実施する。また、令和 8 年度の認証技術者資格更新のための準備を進める。

評価試験名	開催日	会場
圧力設備診断技術者レベル 1 評価試験	12 月 6 日(日)	東京：損保会館 大阪：科学技術センター
圧力設備診断技術者レベル 2 評価試験		
設備等のリスクマネジメント技術者評価試験		

8. 教育講習活動

教育委員会のもとで、BOK (Body of Knowledge: 修得すべき技術内容) に従い下記の通り講習会を会場とオンラインのハイブリッド方式にて行う。圧力設備診断技術者レベル 1 及びレベル 2 のテキストの改訂を行う。

講習会名	開催日	会場
圧力設備診断技術者レベル 1 講習会	10 月 9 日(木)、10 日(金)	エッサム神田 ホール
圧力設備診断技術者レベル 2 講習会	10 月 2 日(木)、3 日(金)	
設備等のリスクマネジメント技術者講習会	10 月 16 日(木)、17 日(金)	

II. 事業関係活動

1. 出版及び販売

- ・日本高圧力技術協会規格(HPIS、HPI TR)を販売。
- ・圧力設備診断技術者及び設備等のリスクマネジメント技術者講習テキスト及び講演 PPT 資料、並びに解答例付評価試験問題集(令和 4 年度～7 年度版)を販売する。

2. 技術セミナーの開催 (オンラインセミナー)

セミナー名	開催日
圧力設備の材料、設計、施工、維持管理の基礎	6 月 9 日(火)、10 日(水)
材料の損傷・破壊の基礎知識とその適用	7 月 7 日(水)、8 日(木)
エネルギー貯槽技術の最新動向	9 月開催予定 (1 日)
水素技術基礎講座－安全な機器運用のために－	10 月又は 11 月開催予定 (1 日)

セミナー名	開催日
STOP 委員会主催セミナー	10 月又は 11 月開催予定 (1 日)

3. 専門研究委員会

(敬称略)

委員会名	開催予定	令和 8 年度計画
圧力容器規格委員会 (略称: PVCS 委員会) 委員長: 熊谷克彦	2 回	材料規格分科会、圧力設備維持規格分科会、高圧容器規格分科会の分科会活動を統括し、圧力設備関連規格の時宜を得た改定と維持管理に努める。 ① 3 つの分科会の活動を統括する。 ② D 区分で採択された JIS B0190 改正について、改正委員会の活動を支援する。
幹事会 幹事長: 山際謙太	2 回	PVCS 幹事会では、PVCS 委員会及び分科会活動の促進・調整を図ることを目的として活動する。 ① 圧力容器規格委員会の運営の促進を図る。 ② 分科会活動においても促進・調整を図る。 ③ 上記の活動を行うために委員会開催前に幹事会を開催し調整等を行う。
材料規格分科会 主査: 石毛健吾	3 回	材料規格分科会では、国内の圧力容器に使用される材料の規格の設定・維持を最終目標として、HPIS C104、C105 及び JIS B 8265、B 8267 の許容引張応力表や材料特性表の改正に関連する活動を行う。 ① HPIS C105 を見直す。 ② JIS B 8267 改正原案に関する修正対応を行う。 ③ JIS B 8265 に関する動向の情報収集を行う。
維持規格分科会 主査: 弥富政享	5 回	PVCS 委員会維持規格分科会では、国内の非原子力分野における圧力容器のき裂欠陥評価に関する維持規格を制定することを最終目標として、国内外の最新の維持規格を調査し、国内規格に採用する際の問題点、改善点を協議し維持規格に反映する活動を行う。 ① HPIS Z103 のパブコメ対応を実施し、発刊する。 ② HPIS Z101 Level 1 の改定に向けて最新技術情報の収集及び改定に関するロードマップを作成し、改定作業に取り組む。
高圧容器規格分科会 主査: 寺田進	4 回	高圧容器規格分科会では HPIS C106-2023 高圧容器規格の改訂版の発行を目標に活動を行う。 ① HPIS C106 が参照している ASME Sec. VIII Div.3 2025 年版改正項目を確認して、項目毎に HPIS C106 改正案を検討する。 ② 高圧容器の設計に関連する ASME PVP2025 の論文紹介を分担して実施する。 ③ ASME Sec. VIII Div.3 改正を担当する SG-HPV Committee に寺田主査が出席し、情報入手と日本からの提案を行う。
クラッド研究委員会 (略称: CLAD 委員会) 委員長: 高橋邦夫	3 回	目標はクラッド鋼・新エネルギー関連技術の講演会の実施、クラッド鋼・二次加工製品に関する規格の改正、クラッド鋼の製造・加工技術に関する規格整備の状況並びに技術論文の作成とする。 ① クラッド鋼・新エネルギーに関する講演会を実施する。 ② JIS G 3601 「ステンレスクラッド鋼」の改正原案を作成する。

委員会名	開催予定	令和8年度計画
		③ クラッド鋼の製造・加工技術に関する規格整備の状況並びに技術論文を作成する。
エネルギー貯槽等安全性専門研究委員会関連委員会 総合検討委員会 (略称:EST委員会) 委員長: 阪上隆英		技術セミナー「次世代のエネルギー貯槽に関する技術」の9月開催を目標とする。
構造・設計専門委員会(略称:EST-1委員会) 委員長: 吉田聖一	委員会: 8回 幹事会: 8回	石油、高圧ガス、LNG、LPG、水素、アンモニア等のエネルギー貯槽の構造設計に関する技術調査・検討を行い、規格基準の整備に資することを最終目標とする。 ① 石油、高圧ガス、LNG、LPG、水素、アンモニア等のエネルギー貯槽の構造設計と地震に対する安全性評価についての調査検討を行う。 ② 新エネルギーの貯蔵、輸送に関する技術動向を調査・検討する。 ③ 石油、高圧ガス、LNG、LPG、水素、アンモニア等のエネルギー貯槽に関する国内外の技術動向を調査・検討する。
検査・安全専門委員会(略称:EST-2委員会) 委員長: 笠井尚哉	4回	エネルギー貯槽及びその関連施設、機器の安全性を向上させるために、新しい検査技術、安全・リスク評価手法、IoT技術を利用した保全管理手法等の調査・検討を行う。 委員会としてフォローしている規格は、下記の通り。 HPI TR E102:2012 AE 法による地下貯蔵タンクの腐食損傷度の評価に係る技術指針 HPIS G107:1999 固定屋根付き浮き屋根式石油類貯蔵タンクの通気装置 HPIS G109:1998 石油類貯蔵タンクの通気装置および配管系に設置されるフレイムアレスタ ① 貯槽、設備に適用可能な新しい非破壊検査技術手法の調査、検討を行う。 ② 貯槽、設備に適用可能なドローン、ロボティクス技術の調査、検討を行う。 ③ 貯槽、設備に適用可能な安全・リスク評価手法の調査、検討を行う。 ④ ビックデータ、デジタルツイン技術などのIoT技術を用いた保全管理手法の調査・検討を行う。 ⑤ 新しいエネルギーキャリアの調査を行う。 ⑥ EST-1、EST-3との合同委員会を開催する。
維持・管理専門委員会(略称:EST-3委員会) 委員長: 岡崎慎司	4回	エネルギー貯槽及びその関連施設の維持管理・劣化評価技術・長寿命化のための、新しい腐食管理・モニタリング技術、防食技術、IoT技術を利用した保全管理手法等の最新動向に関する情報収集を行う。 委員会としてフォローしている規格は、下記の通り。 HPI TR G105:2017 石油タンクの防食および腐食管理指針

委員会名	開催予定	令和 8 年度計画
		<p>① 設備保全管理分野における DX の動向（A I 技術やシミュレーションなど要素技術を含む）について情報収集を行う。</p> <p>② コーティング関連技術・腐食促進試験などの材料評価技術の近年の動向について情報収集を行う。</p> <p>③ 水素・アンモニアをはじめとする新エネルギーシステムの GX に向けた動向と維持管理に関連した情報収集を行う。</p> <p>④ CUI 腐食・大気腐食のメカニズム及び最近の検査・計測技術及び防食技術に関する情報収集を行う。</p> <p>⑤ EST-1、EST-2 との合同委員会の開催を行う。</p>
<p>圧力設備のシーリング技術研究委員会（略称：STOP 委員会） 委員長： 小林隆志</p>	<p>委員会：4 回 幹事会：10 回 WG:30 回</p>	<p>STOP 委員会は以下の 2 点を目的に活動を行う。</p> <p>1) シーリング技術問題の学術的研究力と技術力の向上と成果及びその普及を目指し、産業界に貢献する。</p> <p>2) 世界（欧米）のシーリング研究及び技術力に勝るとも劣らないレベルに達するように早急に研究&技術力を向上させる。さらに日本で開発される研究成果及び技術力を世界のこの分野の発展に貢献できるようにする。</p> <p>本委員会によるこれまでの成果物（制定規格）としては次の通り。 HPIS Z105、HPIS Z108、HPI TR Z110 JIS B 2251、JIS B 2490、JIS B 0116（STOP 委員会メンバーを中心に制定・改正案を作成した。）</p> <p>① 漏洩率基準に基づく締結体設計法の確立に向け、常温での締結体の内力係数の簡易計算手法の確立、及び外荷重に対する挙動計算方法の検討を行う。（WG1）</p> <p>② JIS B 2490 の改正に向け、漏れ量測定方法の追加検討、試験条件の拡大等を検討する。（WG2）</p> <p>③ HPI TR Z 110 の HPIS 化を検討し、フランジ締結作業の認証制度を構築する。（WG3）</p> <p>④ フランジ設計及び施工の基礎的な技術セミナーを開催する。10 月に予定する。</p>
<p>3 次元 FEM 応力評価研究委員会（略称 TDF 委員会） 委員長： 澁谷忠弘</p>	<p>3 回</p>	<p>目標は、Design by Analysis の最新情報を調査し、弾塑性解析に基づく一次荷重評価、繰返し荷重評価方法を検討する。また、大規模解析を用いた応力評価についても調査する。調査した弾塑性解析に基づく一次荷重評価、繰返し荷重評価方法を参考に、弾塑性設計評価手法の高度化を検討する。</p> <p>① ASME PVP Conference の Design by Analysis に関する文献調査を行う。</p> <p>② 大規模解析を用いた応力評価の調査を行う。</p> <p>③ 弾塑性設計評価手法の高度化の検討を行う。</p>
<p>高温設計研究委員会（略称:ETD 委員会） 委員長： 笠原直人</p>	<p>2 回</p>	<p>HPI TR C111 「高温機器の疲労及びクリープ疲労評価法」を発刊する。</p> <p>① 圧力設備規格審議委員会の審議に基づき HPI TR C111 「高温機器の疲労及びクリープ疲労評価法」原稿を改訂する。</p>
<p>保全分野への AI 適用に関する研究委員会（略称:AIM 委</p>	<p>委員会：4 回 WG:4 回</p>	<p>保全分野への AI 適用に関する専門研究委員会では、「AI を適切かつ効果的に活用できる保全技術者の育成」および「プラント保全分野における AI 適用の標準化・指針策定」を最終目標として、以下の活動を推進する。</p>

委員会名	開催予定	令和8年度計画
<p>員会) 委員長： 水谷義弘</p>		<p>① AI の基礎的事項を学べる場を提供し、AI の素養を持つ保全技術者を育成する。また、AI の最新動向を共有するとともに、保全現場への適用方法について議論できる場を設ける。</p> <p>② 画像・時系列データなどの練習用データセットから、より実務に近いプラント保全データまで、研究委員会を使用するデータを整備し、実際に AI 適用を試行する活動を推進する。また、得られた知見を将来的に規格・書籍として体系化する。</p> <p>③ AI 適用に適した保全データの内容、ラベリング方法、取得方法などについて議論し、指針や事例集の形でとりまとめる。</p> <p>④ プラント保全分野 AI 信頼性評価ガイドラインや各種国内外ガイドライン・適用事例を共有し、その理解を深める場を提供する。さらに、HPI 会員が関わる代表的機器・損傷モードについて、より具体的な標準・指針・例示を策定し、AI を活用しやすい環境整備を行う。</p> <p>令和8年度は下記を行う。</p> <p>① 保全技術者の負担低減を念頭に、保全業務に AI を適用し易くする環境作りについて議論する。</p> <p>② AI 適用に適した保全業務、AI 適用が望まれる保全業務について議論する。</p> <p>③ 保全業務への AI 適用例、およびその関連事項を調査し、情報を共有する。</p> <p>④ テクニカルレポート (TR) 作成に向けた議論をする。</p> <p>⑤ RBM 委員会と合同で生成 AI のリスクベース規格適用に関する有効性・適用可能性を検証する。</p> <p>⑥ 12 月に技術セミナー開催を予定する。</p>
<p>高圧水素技術研究委員会(略称:PHT委員会) 委員長： 吉川暢宏</p>	<p>委員会： 3回 WG： 10回</p>	<p>高圧水素技術専門研究委員会では下記を目標とする。</p> <p>① 平底円筒型大型液化水素貯槽の安全性を確保するための技術基準を作成する。</p> <p>② 燃料電池自動車用炭素繊維強化プラスチック製高圧水素容器の国際基準合理化に資する技術的知見の蓄積を最終目標として活動を行う。</p> <p>令和8年度は下記を計画する。</p> <p>① 平底円筒型大型液化水素貯槽の技術基準のベースとなる条文案の主要部分を完成する。技術基準修文のための枠組み設定方法の検討を行う。</p> <p>② 燃料電池自動車用炭素繊維強化プラスチック製高圧水素容器の安全率を検討するための統計論的手法に関する調査、検討、情報収集を行う。</p> <p>③ 12 月に技術セミナー開催を予定する。</p>
<p>リスクに基づく保全技術研究委員会(略称:RBM委員会) 委員長： 岩崎篤</p>	<p>委員会： 4回 幹事会； 4回 WG： 4回</p>	<p>RBM 専門研究委員会では、リスクに基づく保全手法であるリスクベースメンテナンスの体系化及び規格化を目標に、API 規格をベースとした日本独自規格の作成および高度化検討の活動を行う。活動内容は HPIS Z106 および HPIS Z107 にて規格化を行う。</p> <p>令和8年度は下記を計画する。</p> <p>① HPIS Z107 の見直しを実施し、本年度中の改訂原稿案完成を目標とする。</p> <p>② 石油精製プラントの脱硫装置に関し作成した例題集の公開方法の検討を行うとともに、公開可能な状態として完成させる。</p> <p>③ 改訂された API581、API580 に関する調査をおこない、HPIS</p>

委員会名	開催予定	令和8年度計画
		<p>Z106、HPIS Z107 への反映の必要性検討を行う。</p> <p>④ 生成 AI の保全への活用可能性の検討を行う。RBM 専門研究委員会では主に Google LLM を対象として検討を行う。</p>

以上